

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (2) 活力あふれる府立高校づくりをすすめます

【基本的方向】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ④ 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) の充実 (グローバルリーダーズハイスクール支援事業) ＜参考資料 P 164＞	GLHS10 校共同で、海外派遣研修、課題研究の発表会などを実施した。 各学校の活動実績を評価する評価審議会委員が 10 校の平成 28 年度の取組みを評価するとともに、平成 29 年度評価にむけて、学校訪問や校長ヒアリングを実施した。また平成 26～28 年度の取組みの評価を行い、10 校の再指定を決定した。
	工科高校の充実 (実業教育充実事業) ＜参考資料 P 166＞	老朽化や安全性を考慮し、設備の更新を行うとともに、産業界からのニーズや学習指導要領に対応した設備を導入した。 また、平成 26 年 4 月から工科高校 9 校それぞれが持つ強みを生かし、人材育成を重点化した 3 つの型 (①「高大連携重点型」、②「実践的技能養成重点型」、③「地域産業連携重点型」) に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プログラムを展開した。 生徒・保護者対象の進路説明会などにおいて、工科高校魅力化推進プロジェクトチームで作成した工科高校 PR 映像を掲載したホームページを紹介し、工科高校の魅力発信などを行った。
	生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置 (エンパワメントスクールの設置) ＜参考資料 P 168＞	平成 29 年度までに開校したエンパワメントスクール 6 校 (西成高校、長吉高校、箕面東高校、成城高校、岬高校、布施北高校) については、モジュール授業やエンパワメントタイムの学習内容の充実に向けて、研修会等を通じて教員の授業力向上を図った。 また、平成 30 年 4 月にエンパワメントスクールとなる淀川清流高校及び和泉総合高校については、開校に向けて施設・設備の整備やプロジェクトチームの運営、中学生等への PR を行った。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
②	不登校の減少・中途退学防止の取組み （様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業） （課題早期発見フォローアップ事業） <参考資料 P 170～P 171>	中退率の高い 34 校に中退防止コーディネーターを配置し、中高連携や校内組織体制づくりを推進するとともに、全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを共有化した。また、中退防止担当が責任者となり、中退の多い学校に対してヒアリングを行った。 様々な課題を抱える生徒が多い府立高校（定時制課程）4 校にスクールソーシャルワーカーを配置し、学校への定着を図った。さらに、課題を抱える生徒が多い府立高校 14 校に NPO が運営する居場所を設置し、スクールソーシャルワーカーなどの外部人材を配置し、学校への定着を図った。
	障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置 （障がいのある生徒の高校生活支援事業） <参考資料 P 171>	障がいのある生徒の心身のケアや支援などを行うため、全ての府立高校にエキスパート支援員としてスクールカウンセラーを配置した。 また、生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、要望があった学校に学習支援員及び介助員を配置した。
③ 【基本方針 7 基本的方向③ 及び基本方針 8 基本的方向 ①の再掲】	府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備推進 （府立学校老朽化対策事業） <参考資料 P 239> （特別教室空気調節設備整備事業等（注）） <参考資料 P 239> （学習環境改善事業） <参考資料 P 239> （福祉対策整備事業） <参考資料 P 239>	老朽化対策については、平成 27 年度に策定した「府立学校施設整備方針」に基づき、平成 28 年度より 3 か年計画で劣化度調査を実施中。 平成 29 年度は 64 校で調査を実施し、それぞれの学校において中長期保全計画と修繕実施計画を作成した。 府立学校 4 校で老朽化したエレベーターの改修工事を、府立学校 7 校で実施設計を実施した。 また、新規で府立学校 1 校にエレベーターの設置に係る実施設計を実施し、3 校でスロープ、階段手すり設置工事等を実施した。 府立高校 15 校で老朽化が著しいトイレ設備の改修工事を実施した。 府立高校 55 校のトイレ改修工事に係る実施設計を実施した。 非構造部材の耐震化として、府立高校 22 校で武道場の天井・照明等の工事を実施した。 平成 30 年度に予定している府立高校 1 校の音楽ホール天井・照明等の工事に係る実施設計を実施した。 全府立学校へ展開している統合 ICT ネットワークについて、セキュリティー対策などの安全な環境維持に努めるとともに、教職員が利用する端末機 2,000 台及び校内ネットワーク機器(144 校)の更新を行い、教職員が効率的に校務業務を行うための ICT 環境を整備した。

(注) 平成 27 年度末事業終了

【基本方針 2（2）】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
④	入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入 <参考資料 P178>	調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入に当たっては、評定の公平性を担保するため、チャレンジテストの結果を活用した府内統一ルールを策定し、運用した。
⑤	府立高校の再編整備の計画的な推進 （府立高等学校再編整備事業） <参考資料 P179>	大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画に基づく平成 29 年度実施対象校及び再編方針案を公表した。その後、府議会での議論や保護者等への説明を経て、改編を行う 3 校について決定した（機能統合する学校 2 校、総合学科へ改編する学校 1 校）。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H29 年度実績値	点検結果	
○指標 12 学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	全府立学校で 70%以上を めざす (注1)	70%を上回った学校 110 校/170 校	70%を上回った学校 131 校/185 校 〔H28 年度実績 70%を上回った学校 132 校/184 校〕	△	平成 29 年度実績は、計画策定時の 実績を上回ったが、目標には達し なかった。
○指標 13 府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合)	全国水準をめざす	93.2% (全国 : 95.8%)	95.1% (全国 : 98.1%) 〔H28 年度実績 95.1% (全国 : 98.0%)〕	△	平成 29 年度実績は、計画策定時の 実績を 1.9 ポイント上回ったが、 全国平均との差は 3.0 ポイントで あり、目標には達しなかった。
○指標 14 府立高校全日制課程の 生徒の中退率	全国水準をめざす	1.8% (全国 : 1.0%)	H28 年度実績 1.3% (全国 : 0.8%) 〔H27 年度実績 1.5% (全国 : 0.8%)〕 ※H29 年度実績は H30 秋以降 に公表予定	△	平成 28 年度実績は、計画策定時の 実績を 0.5 ポイント改善し、全国 平均との差も 0.5 ポイントに縮小 した。 ※目標達成状況については、平成 29 年度実績公表時に判明。
○指標 15 進路実現率	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける現 役での大学進学率を向上 させる	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける大 学進学率 現役進学率 : 60.6%	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける大学 進学率 現役進学率 : 67.0% 〔H28 年度実績 67.6%〕	○	平成 29 年度実績は、計画策定時の 実績を 6.4 ポイント上回り、目標 に達した。
	工科高校における高度職 業資格取得者数について 300 名をめざす (注2)	工科高校における高度職 業資格取得者数 150 名	H29 年度工科高校における 高度職業資格取得者数 232 名 〔H28 年度実績 204 名〕	△	平成 29 年度実績は、計画策定時の 実績を 82 名上回ったが、目標には 達しなかった。

(注1) 一部の支援学校については児童・生徒の状況を踏まえて診断項目を設定しているため、学校生活満足度を測る項目についての調査を実施していないことから、「全府立学校」には一部支援学校を含
まない。

(注2) 「高度職業資格取得者」とは、旋盤など技能士検定(国家検定)等の取得者を示す。

【自己評価】

【基本的方向①】グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など、社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。

- ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）や国際関係学科の設置など府立高校の充実を進めた結果、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度は上昇したが、引き続き、全府立学校で生徒の学校生活満足度 70%以上をめざすという目標の達成に向けて、PDCA サイクルを更に強化するなどにより一層の取組みが必要である。
- ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）については、各校が教員の授業力向上や進路指導の充実に努めるとともに、学習合宿や進学講習に取り組んだ結果、現役での国公立大学進学率の向上という目標を達成した。
- ・工科高校については、高度な職業資格取得に対応した学習内容の充実を図った。平成 29 年度の高度職業資格取得者数は増加したが、目標値とは隔たりがある。高度職業資格の取得には、高度技能指導者の指導が不可欠で、派遣費用等の確保が必要である。生徒の進路希望の実現に向け、理工系大学への進学の推進や高度な資格取得を図るとともに、地域産業との連携について、企業等との連携による実践的スキル育成事業を活用するなどより一層の取組みが必要である。また、工科高校の魅力を発信したが、募集人員の充足につながらなかった。今後、工科高校 PR 映像を掲載したホームページや DVD、リーフレットを有効に活用するとともに、就職だけでなく進学実績をアピールするなど、中学生、保護者や中学校教員に工科高校の魅力を一層発信していく。

【基本的方向②】キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。

- ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然低位にあり目標に達しなかった。平成 26 年度から取り組んでいた「キャリア教育支援体制整備事業」においては、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した対象校で就職希望者が増加するとともに、平成 28 年度の就職内定率が平成 27 年度と比較して 1.9 ポイント上昇し、進路未定者においても 3 年連続で減少した。これは、キャリア教育の取組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者がより明確な職業イメージを持ち、粘り強く最後まで取り組んだ結果によるものである。平成 28 年度で「キャリア教育支援体制整備事業」が終了し、平成 29 年度はこれまで構築した校内体制及び就職支援に関する情報やノウハウを進路指導担当教員に周知することで、支援体制の充実を図った。【基本方針 2（1）基本的方向③再掲】

- ・中途退学については、平成 28 年度の府立高校全日制課程の生徒の中退率は、前年度から 0.2 ポイント減少となり、全国との差については 0.2 ポイント縮まったが、目標には達しなかった。不登校・中途退学への対応については、高校中退防止コーディネーターの配置や各校の取組みの共有化を行うとともに、スクールカウンセラー等の外部人材とも連携し、平成 28 年度には、教育庁内の中途退学担当が責任者となり、各校の置かれている個別の状況と課題について聞き取りを行っている。今後、福祉部等の関係部署と連携する体制を一層充実していく。

【基本的方向③】 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。

- ・府立学校の施設整備については、非構造部材の耐震化（照明器具等落下防止対策）を計画的に実施し、地震発生時における生徒・教職員の安全確保を進めた。また、非構造部材の耐震化については、平成 27 年度末に完了を目標としていたが遅れており、武道場等の工事と来年度の工事に向けた実施設計を行い、平成 30 年度末に完了する予定である。

さらに、トイレ設備の改修工事についても実施計画を策定し、良好な学習環境の整備を進めている。

- ・府立学校の老朽化対策については、府立学校施設整備方針に基づき、建物の劣化度調査を行い、学校施設の長寿命化に関する方針や中期改修計画の検討、作成を進める。【基本方針 8 基本的方向①の再掲】
- ・全府立学校へ展開している統合 ICT ネットワークについて、セキュリティ対策などの安全な環境維持に努めるとともに、教職員が利用する端末機 2,000 台及び校内ネットワーク機器(144 校)の更新を行った。引き続き、教職員が効率的に校務業務を行うため ICT 環境を整備していく。

【基本方針 7 基本的方向③の再掲】

- ・長期入院している生徒等への学習支援として、2 校で ICT を用いた「遠隔授業サポートシステム」を確立し、学校の授業に双方向の通信で参加することができ、学習の遅れを取り戻すこと等の支援となった。引き続き、登校（復帰）後も学業にスムーズに接続できる体制の構築を支援していく。

【基本的方向④】 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。

- ・府内統一ルール の運用状況について、市町村教育委員会を通して調査を行ったところ、94.2%の中学校において、評定を変更することなく、府内統一ルールで定める範囲に収まっていることを確認した。
- ・平成 28 年 10 月及び平成 29 年 1 月の文部科学省からの通知をふまえ、平成 30 年度入学者選抜より、インフルエンザ等罹患者に対し、これまでの別室受験に加えて、追学力検査を実施した。

【基本的方向⑤】各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

- 府立高校の再編整備については、平成25年11月に策定した「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、平成29年度にはエンパワメントスクール1校（布施北）を開校し、普通科総合選択制高校5校（門真なみはや、伯太は総合学科に、東淀川、かわち野、りんくう翔南を普通科専門コース設置校に）を改編した。
- 平成29年度までに開校したエンパワメントスクール6校においては、基礎学力の充実のための「30分モジュール授業」や社会で活躍できる力を身につける「エンパワメントタイム」の実施などにより、「勉強がわかるようになった」と感じている生徒が増え、生徒の欠席回数及び遅刻回数とも改編前年度と比較して約5割減少した。今後も、教育内容の一層の充実に向けて、各校教科担当者の連絡会や研修会を定期的実施していく。
- 平成28年度に再編整備を決定し、平成30年度に開校・改編する8校（北淀・西淀川統合新校である淀川清流高校、泉尾・大正統合新校である大正白稜高校、和泉総合、成美、北摂つばさ、緑風冠、金剛、豊中高校能勢分校）については、改編に向けた準備を進めた。
- 平成29年度に再編整備を決定し、平成31年度に改編する3校（柏原東高校を八尾翠翔高校に機能統合、長野北高校を長野高校に機能統合、普通科総合選択制から総合学科に改編する枚方なぎさ高校）については、改編等に向けた検討や準備を進めた。引き続き、活力ある学校づくりと教育内容の充実に向けて、再編整備を進めていく。

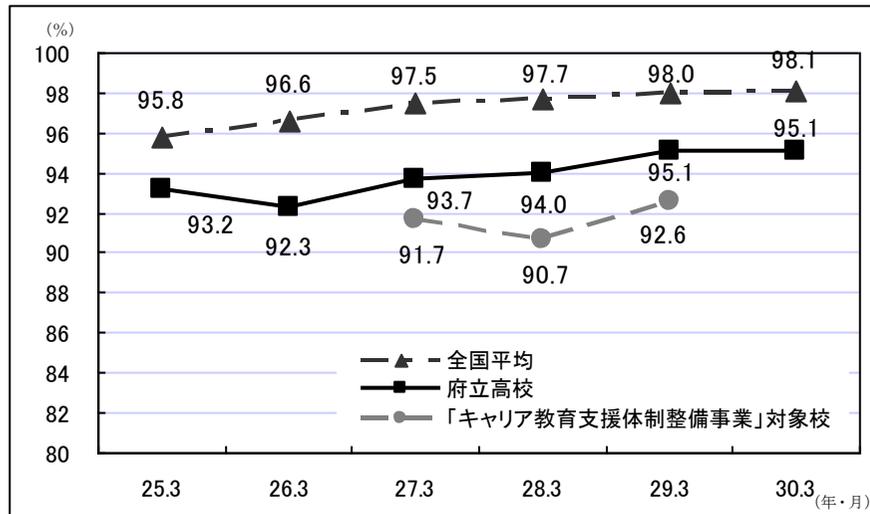
【評価審議会における審議結果】

【基本的方向①について】

- エンパワメントスクールのあり方は、大阪らしくて良い取組みである。今後も、エンパワメントスクールにおける取組みについて、情報発信等さらなる充実を図ってほしい。
- 募集人員に満たない工科大学があることについては、工科高校で何をしているかがわかりにくいのが一因ではないか。保護者は、どうしても中学校卒業後は、普通科の高校という単線型の進学を考える方が非常に多いと感じる。子どもたちの多様性を考えれば、子どもたちの好きなことや得意なことで進学できるような取組みを進めてほしい。

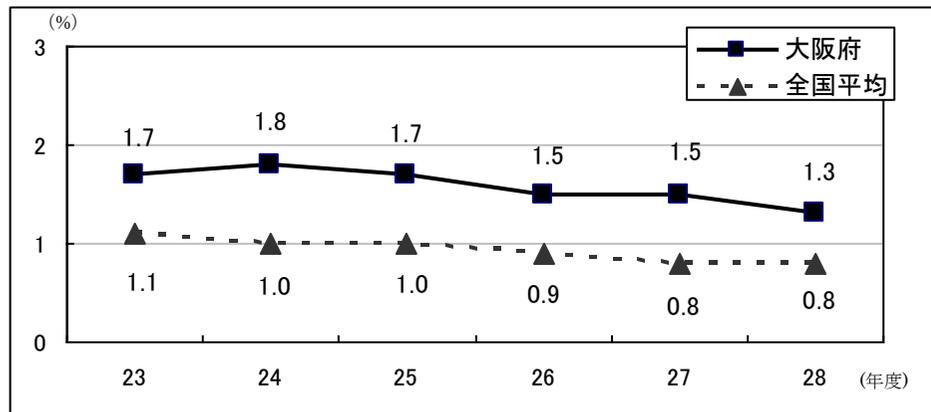
(参考)

◆指標13 府立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）



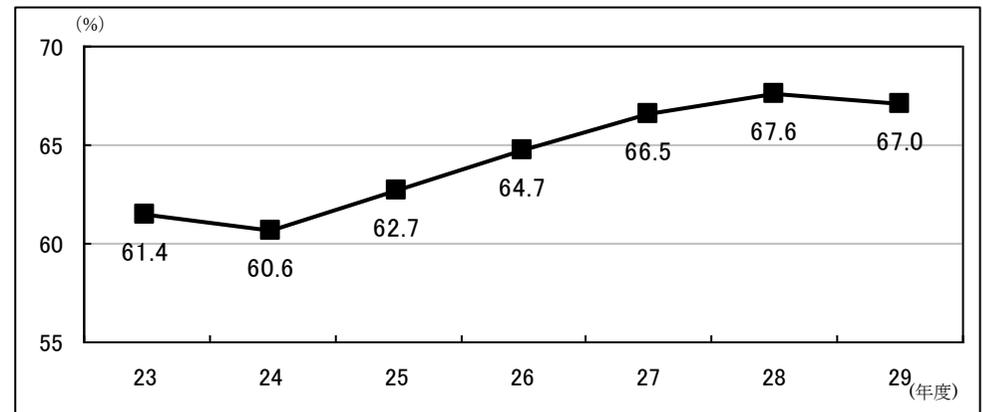
※府教育庁調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」
 ※「キャリア教育支援体制整備事業」
 対象校 37校（府立高校 32校、私立高校 5校 ※H28年度）

◆指標14 府立高校全日課程の生徒の中退率



※府教育庁調べ及び文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標15 グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）における大学進学率（現役進学率）



※府教育庁調べ
 ※GLHS：グローバル社会をリードする人材の育成をめざして教育活動を行う府教育委員会が指定した学校 10校（H29年度末時点）